

20131019 東北食農研究会／第4回ミーティング議事録

「復興の過程で見てきた仙台市における新しい農業の取組み」

日 時：2013年10月19日（土）17:00-18:30

場 所：宮城県仙台市国分町「スタジオルーモコレクション」

発表者：小粥恵子さん（仙台市 経済局 東部農業復興室 農と食のプロジェクト推進係長）

参加者：参加者 14人（発表者除く）

（会社経営者、会社員、議員、公務員、NPO法人理事長、行政書士・司法書士など）

目次

1. 東日本大震災の被害状況
2. 農業復旧の歩み
3. 農業復興に向けて（仙台市「農と食のフロンティア」の事業者紹介など）

発表

1. 東日本大震災の被害状況

・仙台市東部地区の被災状況

人的被害は死者908名（25.9.30現在）

仙台東部道路まで津波浸水

農林水産業関係被害額は734億円（農地関係、農道関係など）

被災地の農地の被災状況。実は大きい、仙台市の農地の被害。2500ha以上の被害は仙台市、亘理町、南相馬市の3つ

・仙台市の農業

農業者総数4627軒、うち専業農家531軒

農地面積5670ha

市内総生産における第一次産業の金額は約63億円

2. 農業復旧の歩み

（1）農地の復旧と再生

①農地のがれき撤去

平成23年7月に開始して平成24年3月に終了。9ヵ月かかった

撤去作業に被災農家の雇用を行う

ただし、がれきの処理をしても塩害や汚泥によりすぐに営農の再開はできない

②除塩・復旧工事と営農再開

耕作可能な農地に戻す工事を行った

海から遠いところから3年度に分けて工事をスタートした

平成23年度 560ha  
平成24年度 900ha  
平成25年度 400ha（完了予定）

なお、海に近いところは干潟のようになってしまっている部分もある。

③ほ場整備の推進

整地した田畑にしていく作業を並行している。営農、管理が容易な農地にする

(2) 被災農業者の経営支援

①生産施設復旧や設備導入への支援

たとえば、共同育苗施設、乾燥調製施設など

「被災地域農業復興総合支援事業」

機械や施設等について集落営農組織への貸付を行い、営農再開に向けて支援する  
稲作用の機械や施設等を中心に行う

②営農再開への支援

「被災農家経営再開支援事業」

農道の草取り、微細がれきの除去について協同して行う農業者に対して支援金を交付する

「野菜・花きパイプハウス緊急設置事業」

③農地集積への支援

効率的で生産性の高い農業の実現に向け、将来の地域農業の担い手へ農地を集積する取り組みを推進している

農地の一括的な管理を行うようにしたい。しかし、将来の担い手が必要となる

国や市の支援制度としては、たとえば、「農地集積支援金（国）」がある

3. 農業復興に向けて

(1) 農と食のフロンティアの構築

①農商工連携の推進

新商品開発の補助金を支給している

②6次産業化の促進

③農と食のフロンティア推進特区

税の優遇をはかって進出を促進している。たとえば、新規投資にかかる固定資産税を5年間免除など

④主な農と食のフロンティア事業

・農事組合法人イーストカントリー

農家レストランの経営と米、おにぎりなどの販売している

「雇用を生み出したい」という思いがある

・農事組合法人クローバーズファーム

トマトを水耕栽培してしる

・岡田生産組合

被災地で最大の集落営農組織である（100以上で構成）  
地域で生産された大豆を原料とする味噌を生産している

- ・株式会社みちさき  
舞台ファーム（仙台市若林区）がかかわっている  
ICTを活用したトマト、サラダハウレンソウを生産している
- ・株式会社耕（かるちえ）  
国分町で農家レストランを経営している  
農業外の分野からの農業研修者（40代以上）を積極的に採用している
- ・荒浜プロジェクト  
東北大学と協同で実施している  
緊急雇用事業を利用している  
ミニトマト、いちご、キクを栽培している
- ・IT活用による農業支援事業  
農業ITマイスター育成事業を行っている  
たとえば、気候要素をデータ化して作業を行いやすくしている。
- ・高山真理子さん  
多品種少量栽培を行っている  
加工商品開発の支援を受けている
- ・ちょっくら  
採れたて野菜の農家レストランを経営している

⑤支援拠点施設の整備

仙台市農業園芸センターの再整備を行っている

以上